

(別添)

被害防止計画目標評価報告書

1 対象地域及び実施期間

対象地域	伯耆町
実施期間	令和5年から令和7年まで

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業内容	対象鳥獣	事業量	管理主体	供用開始	事業効果
有害鳥獣の捕獲	イノシシ	R5：355頭 R6：432頭 R7：132頭	伯耆町	-	捕獲檻等による捕獲により町全体として被害面積・被害額ともに減少し、農作物被害の軽減に寄与している。
有害鳥獣の捕獲	シカ	R5：18頭 R6：13頭 R7：17頭	伯耆町	-	

3 被害防止計画目標の達成状況

被害防止計画目標	基準年(令和3年度)の実績値(A)	目標値(B)	目標年(年度)の実績値(C)	達成率(%) (A-C)/(A-B)	備考
イノシシ(水稻)	2,337千円 212.0a	1,636千円 148a	1,716千円 142a	88.6% 109%	
ヌートリア(水稻)	0千円 0.0a	0千円 0.0a	2千円 2a	200% 200%	

(注) 対象獣種ごとに記載すること。

4 総合評価

本町における有害鳥獣被害の主要な原因となる鳥獣は、イノシシである。このイノシシの捕獲については令和5年度に355頭、令和6年度に432頭、令和7年度に132頭となっている。被害面積は目標を達成し、被害額についても8割強の達成率となり、これまでの被害防止対策が効果を発揮していると推察する。捕獲数が減少する中で被害面積が減少したことは喜ばしいことであるが、それがそのまま生息数の減少・生息域の縮小とは考えにくい。侵入防止柵を設置した地域については、被害が減少している一方で、未設置の地域でのイノシシの被害報告が増える傾向がある。侵入防止柵だけではなく、捕獲檻の効率的な活用を含め、一体的な被害対策の検討が必要と考える。

5 第三者の意見

日光地区協議会 会長 木村修司
計画目標について、被害面積については目標を達成し、被害額についても100%達成とはいかないまでも前回期間と比較し、改善しているが、当日光地区においても引き続きイノシシによる農作物被害が発生している。
また、ニホンジカの生息範囲が鳥取県東部から徐々に広がっており、当地区においても被害報告、捕獲数も徐々にではあるが増加している。今後、被害拡大が懸念されるため、これまでのイノシシ対策と合わせ、さらなる被害軽減に向けた対策の実施、計画目標の達成にむけた事業実施に期待する。

(注) 1 2の事業効果には、実施要領(別記1)別記様式第8号(評価報告)を参考に事業の実施により発現した効果を定量的な事業効果(獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載するとともに、他事業との連携状況や捕獲効率向上への寄与(整備事業を行った場合)等も踏まえて、その効果を詳細に記入すること。なお、処理加工施設又は捕獲技術高度化施設を整備した場合は、当該施設の利用率及び定量的な経営状況を記入すること。

- 2 4の総合評価のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由も記入すること。
- 3 鳥獣被害防止施設の整備を行った場合には、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況並びに侵入防止柵の設置及び維持管理の状況、有害捕獲活動の捕獲効率向上への寄与について、別紙に具体的に記載し、添付すること。